

「小金井市 認知症安心ガイドブック」実施評価表 結果

	内容	詳細 ※()内は発言者
「相談者の反応」より	分かりやすい	認知症の進行状態が分かりやすい、知らないサービスが発見できた(認知症家族) 進行状態が分かりやすく、色も鮮やかで良い。(施設内相談員) 介護サービス以外のことが分かってよかった。(受診や介護申請に繋がっていなかった方の家族) 小金井市のサービスが掲載されているので助かる。(家族) 別刷りにした地域のサロンや医療機関等が好評(地域住民) 分かりやすくて良いという評判を聞いてもらいにきた(社会福祉士会) 専門診断や介護保険申請の申請等がスムーズにできた。(家族) 介護保険申請につなぐことが出来た。(家族) 講義後に認知症について再度確認することが出来た。(認知症サポーター養成講座受講者) ガイドブックから「シニアのための応援ガイドブック」を知り、もらいにきた(地域住民) 後日相談があり、利用できるサービスを一緒に確認できた(CM) 他に利用できるサービスがないかをみた(CM)
	活用した	
	【特記事項より】	オレンジ色が目につきやすいPOP感を活かして、恐怖感を和らげるように説明している。 見開きが見やすい／取組が一目でわかりやすい 不足しているサービス、知らないサービスの発見ができる。 進行度や症状の変化による、必要なサービスが説明しやすい。利用しているサービスの確認ができる。 支援のポイントに生活習慣のことがあったので、日頃の心がけについて、説明しやすい。 お元気な高齢者への説明がしやすい 新人職員等の人材育成に使用 掲載内容の確認を通じて、認知症施策の検討や情報共有ができた
	説明を受けて分かった	説明してもらってよく分かった、家族も高齢なため、説明をうけ分かりやすかった(地域住民、家族)
	チェックリストの感想	自分も高齢なのでチェックリストをやってみたい(家族) 通所利用者にチェックリストを使用してみたい(施設内相談員)
	チェックリストを活用した	すべて当てはまると話す(本人)→実際と相違あり、市窓口にて持参しかかりつけ医との相談を勧める チェックリストを記入した利用者があり、それを持ってもの忘れ外来を受診した(デイ職員)
	【特記事項より】	チェックリストの単独使用は難しい場合もある 認知症チェックサイトとチェックリストを両方使用し、結果表示が異なる場合に混乱させる可能性あり

	内容	詳細
	分かりにくい	どこから見たらよいか分かりにくい(社会福祉士会) どこに相談に行き、どんな対応をしてもらえるのか分かりにくい(社会福祉士会) 困りごとを中心に解決策・相談先を記載した方が家族の対処法が分かりやすい(社会福祉士会) 当事者が単独で、一読して理解できるのか。これではあまり役に立たないように思う(社会福祉士会)
	不要な項目 追加・変更すべき	「社会参加・予防」の項目は意味がない。(社会福祉士会) サービスを選ぶ時のヒントがあると嬉しい(家族) 他の冊子を参照は不親切(社会福祉士会) 認知症サポーター養成講座・認知症チェックサイトを載せるべき。(市・推進員)
	【特記事項より】	症状に対する具体的な対応ポイントがあると良い。
	量について	量があるため、あとでゆっくり見ます、という方がほとんど。(家族)
	気づき(認知症について) (施策について) (配布を通して)	自分も物忘れがあるから心配・他人事ではない(地域住民) 認知症の人や、気になる行動(代金が支払えない、季節外れの服装)の人がいる【商店職員】 サービス？に行かせられそう(整骨院職員) 「こんなサービスもあるのを知らなかった」という声が聞かれた。(家族) 地域包括センターの認知度が低い気がする。(社会福祉士会) 地域ごとの見守りネットワークを密にする方策を行政が中心になって考えてほしい(社会福祉士会) やすらぎ支援事業の利用者が少なく、CMへの周知不足では(市・推進員) 認知症地域支援推進員を知っている人が多かった。(ヨハネ祭来場者) 店頭で興味のある人が持っていく(地域住民)
	感想(前向きなもの) (ショックだった) (評価しづらい)	近所が高齢者ばかりなので助かる(地域住民) 参考にします・いただいていいですかと興味を持つ(来院者) 認知症の進行が分かるとショックなこともある(家族) 追跡調査はできないので活用状況が把握しづらい(外来患者)
その他 周知方法について	駅や病院での 配布 商工会、商店会 との連携	タイムリーに渡せる方法が必要 本人より家族に届くように 一番必要な人に届かない可能性があるのでは。